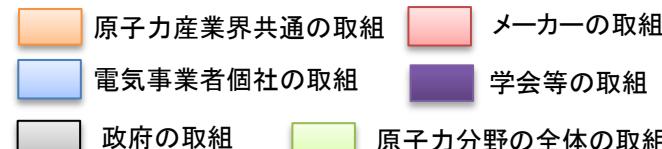
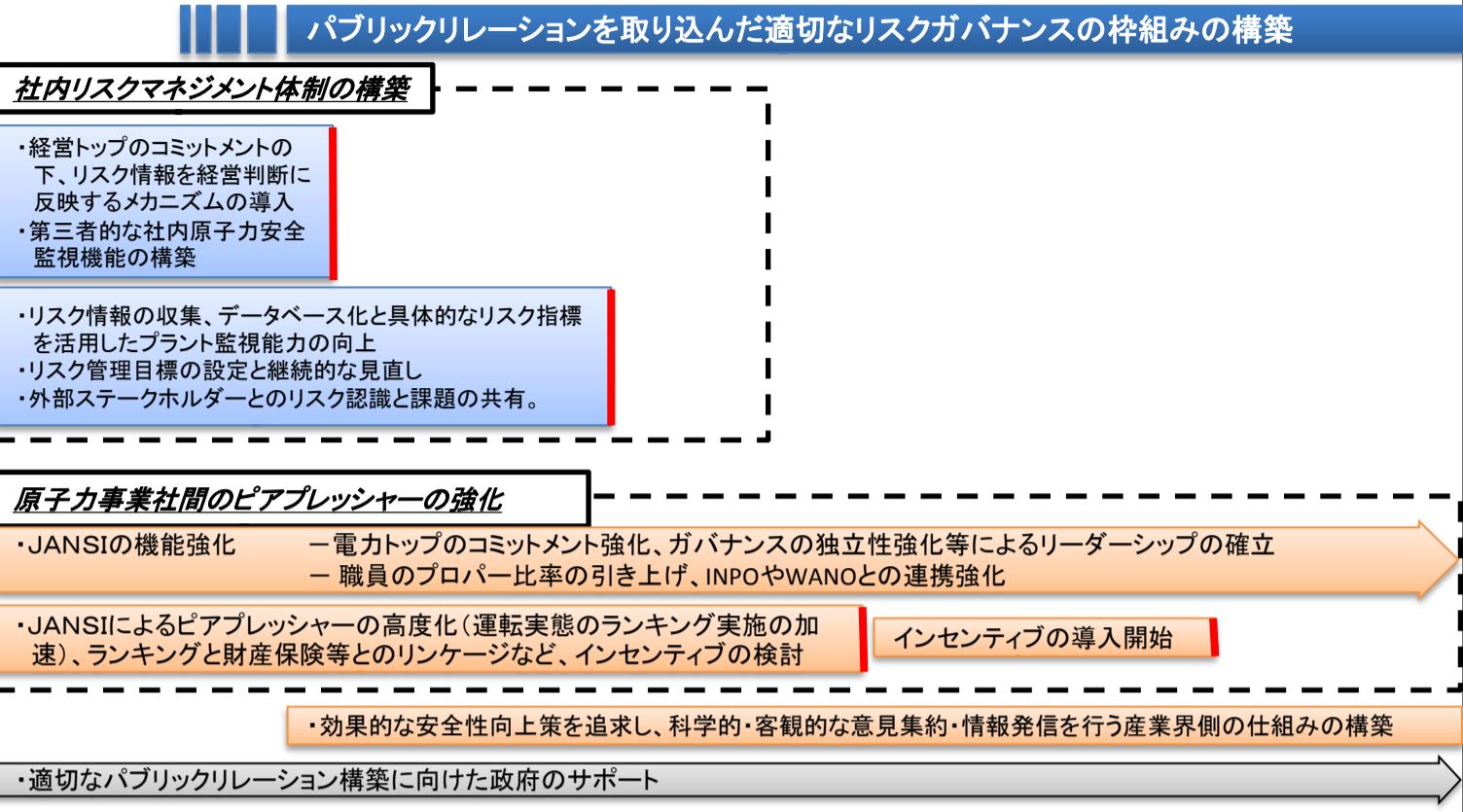


原子力の自主的安全性向上の取組(ロードマップ骨格)



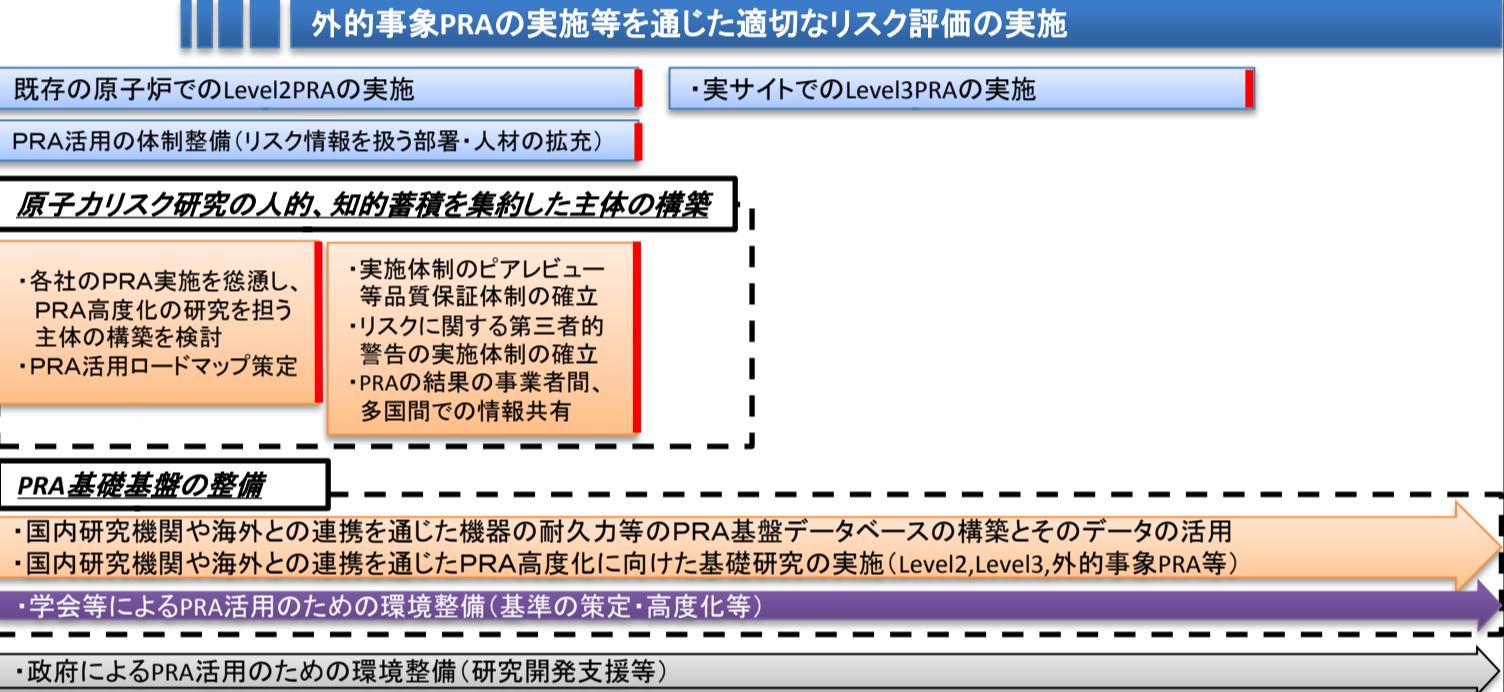
世界の原子力安全の向上を主導する立場の獲得という目標に向けた、自律的な枠組みの確立

1. 適切なリスクガバナンスの枠組みの下でのリスクマネジメントの実施

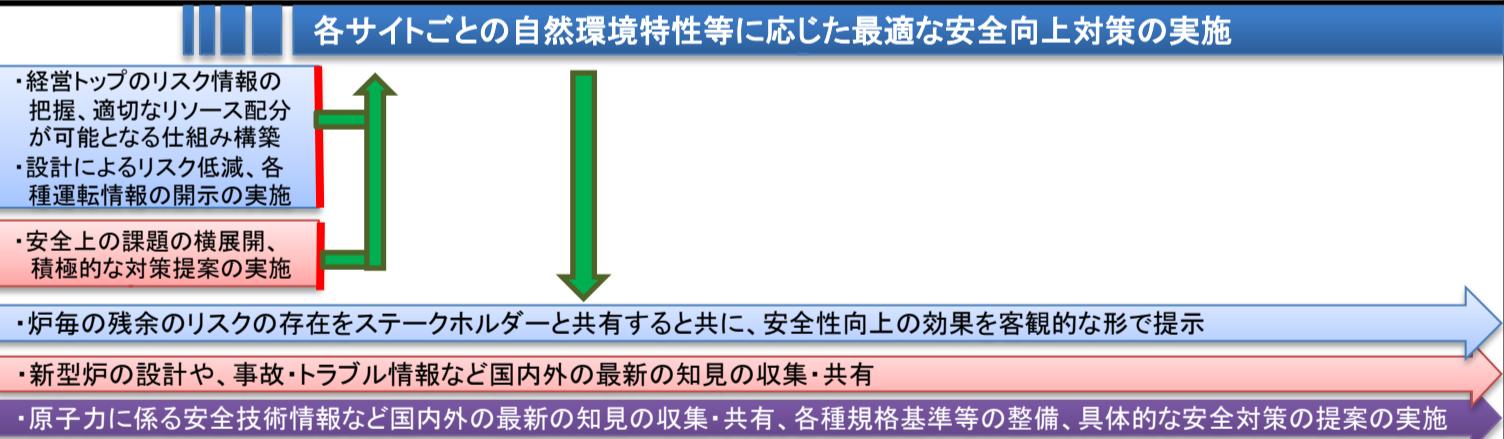


2. 東京電力福島第一原発事故の教訓を出発点に実践が求められる取組

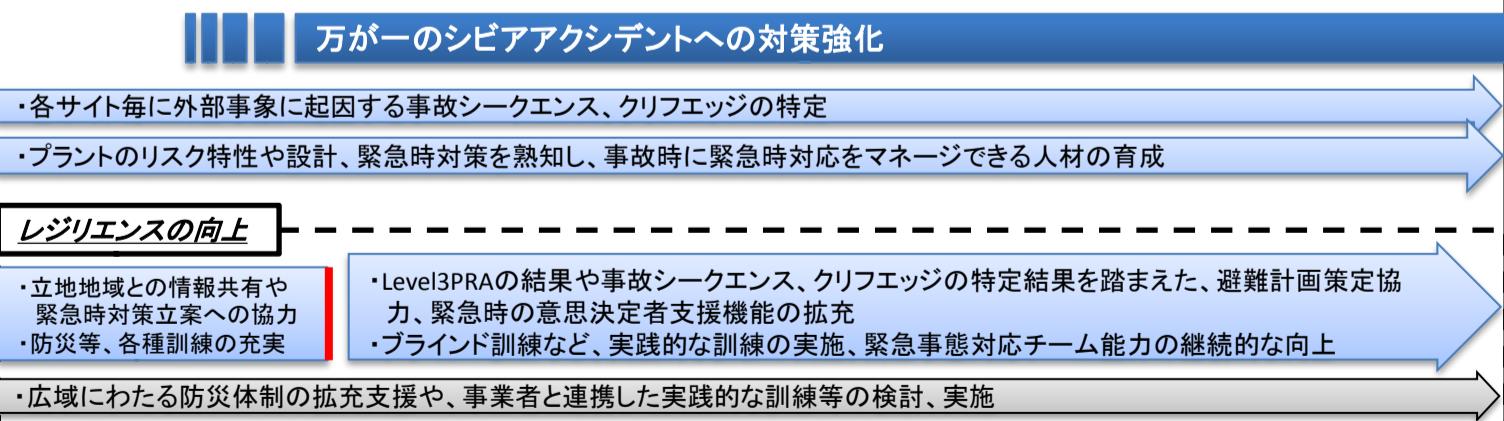
①低頻度の事象を見逃さない網羅的なリスク評価の実施



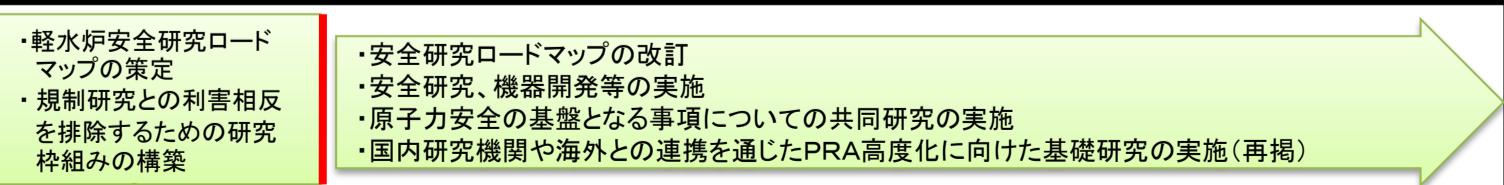
②深層防護の充実を通じた残余のリスクの低減



③外部事象に着目した事故シーケンス及びクリフエッジの特定と、レジリエンスの向上



④軽水炉の安全性向上研究の再構築とコーディネーション機能の強化



○上記の安全性向上の取組を着実に進め、根付かせるためには、特に以下の姿勢が求められる。

- ①批判的思考や残余のリスクへの想像力等を備えた組織文化の実現
- ②国内外の最新の知見の迅速な導入と日本の取組の海外発信
- ③外部ステークホルダーのインボルブメント
- ④産業界大での人的・知的基盤の充実
- ⑤ロードマップの共有とローリングを通じた全体最適の追求